

労働経済論
— 仕事と家族の経済学 —

担当者氏名：水落 正明
(研究室番号：Q6005)

1. プロジェクト研究テーマの設定理由と内容

(1) 仕事と家族

現在は学業を中心に生活しているみなさんも、数年後には社会人として仕事中心の生活に移行することになります。そして、その生活も多くの人にとって50年以上に渡るものとなります。したがって、労働を考えることはほぼ人生を考えることと同義です。また、社会人になると同時に、結婚・出産などの家族形成についての判断にせまられることになるでしょう。

仕事と家族には密接な関係があります。特に、女性は大きな問題に直面します。日本では、依然として女性が仕事と家庭を両立するのが難しい状況にあります。これは、仕事と家庭のどちらかを選ばなければならない可能性が高いことを意味しています。仕事を選べば家庭（結婚や出産）をあきらめ、家庭を選べば仕事をあきらめることとなります。現状の日本を見ると、女性の就業率は先進諸国の中で低く、出生率も低くなっています。多くの女性が働きつつ子どもも多い国もあることを考えると、日本はどうしてこうした状況になってしまったのでしょうか。保育施設が少ないから？男性が家事をしないから？色々な原因が考えられますが、この問題には社会経済制度から人々の価値観まで、様々な要因が複雑に絡み合っているため、まだまだ問題解決への取組が必要とされています。

また、皆さんはやりがいがあり、待遇の良い企業（あるいは公的機関）に就職したいと思っていることでしょう。その際、学部によって有利不利はあるか、部活動やサークル活動、資格といったものは役に立つのか、といったことが気になっているかもしれません。そして就職した後は、長い社会人人生の中で昇進や転職を経験するでしょう。その際、どのような訓練をし、どのような能力を鍛えれば望みの職や地位を得られるのでしょうか。また、仕事によって体調を崩すという話もよく聞きますが、仕事のないことが健康に悪影響を与えることも知られています。どちらが原因でどちらが結果なのでしょう。特に高齢者の就業が促進されている現状では重要なテーマです。皆さんが大学に進学したのは、それがより良い就職につながると考えていたからでしょう。しかしながら世の中の約半分の人たちは大学まで進学しません（できません）。そうすると、幼いころから続けてきた学力向上や学校選択には、どのような要因が影響してきたのでしょうか。

このように労働経済論は、就職・昇進、結婚・出産、健康、教育といった仕事と家族に関わる幅広い範囲を視野に入れ、それらに影響する要因について分析します。現在、これらの事象には社会的な問題が発生しており（例えば少子化や晩婚化）、その解決策が求められています。したがって、データ分析を通して、これらの事象に影響のある要因を明ら

かにし、それに基づいて望ましい労働政策を考えることには、大きな社会的意義があります。日本の将来のため、皆さんの将来のため、あるべき労働政策について一緒に考えましょう。また、非常に身近なテーマが多く、分析を通して今後の人生の参考になる情報を得られるかもしれません。

(2) 本ゼミでのこれまでの卒業論文タイトルの例

- ・若者の選挙投票率の向上
- ・学生生活が昇進に与える影響
- ・仕事満足度を向上させるために
- ・15歳時の家庭的要因とギャンブル依存症対策
- ・政治や選挙への接触機会が政治関心に与える影響
- ・企業の成功要因から考える新規開業者増加への提言
- ・農業従事者の離農要因と対策
- ・野菜の需給調整が食品ロスの削減に与える影響
- ・英語力が年収・役職に及ぼす影響
- ・日本における労働と幸福度
- ・高齢者の生活満足度の規定要因
- ・女性の就業が出生に与える影響
- ・男性の家事参加が幸福度に与える影響
- ・環境配慮行動を規定する要因

2. プロジェクト研究の進め方

3年時は統計分析のコンペティション（論文大会）2つに参加します。

3年 Q1 数量的アプローチ1の履修と並行して学術論文の輪読

Q2 データ分析コンペティション①に向けて分析作業

夏休み ゼミ合宿

Q3-4 データ分析コンペティション②の向けて分析作業

4年時は卒論の執筆に取り組みます。

4年 Q1-2 個票データ分析の復習。卒業論文テーマの検討とデータの入手

夏休み 分析作業

Q3-4 分析の進捗報告と卒業論文の執筆

3. プロジェクト研究のための前提科目および関連科目

このプロジェクト研究を希望する学生は、原則、3年次のQ2に開講される総合演習B（担当：水落）を履修してください（やむを得ない理由で履修が難しい場合には相談する）。履修コースは、いずれでもかまいません。

3年次のQ1に「数量的アプローチ1」を履修してもらいます。その他「労働経済論」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「統計学」、「統計解析」は理解の助けになります。

4. プロジェクト研究開始までの準備

『データ分析をマスターする12のレッスン 新版』（畑農鋭矢・水落正明著、2022年、有斐閣アルマ）は数量的アプローチ1で使うほか、卒業論文執筆に必要な知識が書かれていますので、早めに読んでおくことをおすすめします。

5. その他

データ分析と学外発表が活動の中心です。データ分析については、未経験でもゼミ活動を通して習得してくれば問題ありません。個人データ（アンケートデータ）を使った分析手法が身につくので、将来、商品企画やマーケティング関連の仕事などに就きたい人にとっても有用です。学外発表については、他大学との合同合宿、合同発表会に参加する予定ですので、そういったイベントに積極的に取り組める人を歓迎します。プレゼン能力・コミュニケーション能力を高めたい人にとって有益なイベントになります。3年次は2つのコンペティションに参加するなどタフな活動内容になると思いますが、そうした困難を楽しめる学生の参加を期待します。

学外発表の実績は以下のとおりです。

2015年 ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

2016年 ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

2018年 ISFJ 日本政策学生会議 分科会賞

2022年 統計データ分析コンペティション 審査員奨励賞

ゼミ活動や水落の研究内容については以下のウェブサイトを参照してください。

<http://depts.nanzan-u.ac.jp/ugrad/ps/mizuochi/>

6. 選考方法

学部所定の志望理由書（予備登録票）と面接により決定します。面接の方法は、別途指示します。